

< 実践事例 武蔵村山市立第七小学校 >

1. 取組・活動名

「地域との連携 ～おもてなしの心を育てる～」

2. 取組・活動のねらい

- ボランティアマインドを醸成し、おもてなしの心を育成する。
- 体験的な活動を通して他者を思いやる心を育成し、自尊感情や社会貢献への意欲を高める。
- 東京2020大会に向けて、異文化理解の心を育成する。

3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間、学校行事・20時間」

4. 実施上の工夫

- ・地域の保育園との連携を密に図り、園児と触れ合う中でお世話をする楽しさや達成感を感じられるように配慮し、児童の学習に対する意欲を引き出した。
- ・交流活動を盛んに取り入れ、児童が体験的に学習できる活動の時間を確保した。
- ・本活動以外でも、様々な学習活動・特別活動で上級生は下級生に対して「おもいやりの心」を、下級生は上級生に対して「あこがれの心」を日常的に意識させた。
- ・交流活動の際には、保護者や地域にも協力を呼び掛け、多くの目で児童の活動をサポートする体制を作った。

5. 本取組・活動の内容



「おもてなし講座」

- ・5・6年生を対象に、地域にお住まいの元キャビンアテンダントの方をお招きし、おもてなしをする際の心構えを学んだ。
- ・何人かの児童が実際に前に出て、お辞儀の仕方を体験したり、キャビンアテンダントの方がどのようなことに気を付けているのかを聞いたりと、初めて知ることに関心がたくさんあった。



「ミニ先生」

- ・総合的な学習の時間を使い、五年生たちがお世話になった保育園に行き、園児たちと交流した。
- ・園に行くだけでなく、園児を学校に招待し、小学校の授業を見学したり、5年生が先生役となって本当の教室で国語や算数の授業をしたりした。
- ・小さな子に対して、どのように接したら良いか、考えながら活動した。



「大連との交流」

- ・中国の大連から来た小学生 12 人を、6年生がおもてなしをした。
- ・ネームカードを作ったり、中国語の挨拶を覚えたりして本番に臨み、当日は、一緒に跳び箱をしたり音楽の授業で一緒に歌ったりして楽しみながら交流を実施した。
- ・掃除の時間では、学校での掃除の文化があまりない大連の小学生に、掃除のやり方を教える6年生の姿が見られた。

6. 成果

- ・児童一人一人が相手意識をもち、細やかな心配りや相手の気持ちを考えて交流することの大切さを知ることができた。
- ・文化の差に戸惑いを感じながらも、相手を楽しませたいという気持ちから、自ら相手の国の言語やボディランゲージでコミュニケーションをとろうとする姿勢が育った。
- ・多くの交流活動を通して、児童が実際におもてなしの心を発揮する活動をする事ができた。
- ・校内において、上級生から下級生への思いやりの心が育ち、縦割り班活動や休み時間に、下級生のお世話をする場面が増えた。